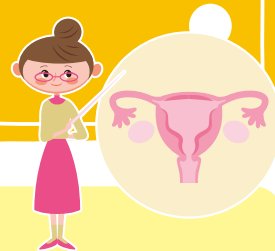


子宮頸がん予防ワクチン接種の 個別勧奨の開始について

4月から子宮頸がん予防ワクチン接種の個別勧奨を開始します。



子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）とは

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因と考えられています。HPVの中には子宮頸がんを起こしやすい種類があり、HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。HPVワクチンを接種することで、がんになる手前の状態（前がん病変）が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることも分かっています。

ワクチン接種は、その有効性や安全性、副反応が起こるリスクを 十分理解した上で受けるようお願いします

接種後には、接種を受けた部位の痛みや腫れ、赤みなどの症状のほか、まれに、アレルギー症状や神経系の症状など重い副反応が起こることがあります。

ワクチン接種のご案内について

これまでの接種差し控えにより、該当する世代の多くの方が未接種と想定されることから、計画的に接種の勧奨を進めるため、本年度の勧奨対象者は中学1年生と高校1年生の方を基本として接種の案内を通知します。

ご不明な点は町民保健センターにお問い合わせください。



子宮頸がん予防ワクチンに関する これまでの経緯と対応

子宮頸がん予防ワクチンは、平成22年11月から国の事業として接種が行われ、平成25年4月には、予防接種法に基づく定期接種に位置付けられました。しかし、平成25年6月に、ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な痛みが、ワクチン接種後に特異的にみられたことから、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきでないとされ、積極的な勧奨（個別に接種を勧める内容の文書をお送りすること）を一時的に差し控えていましたが、令和3年11月に、専門家の意見を踏まえて、接種後の症状に対する支援体制や子宮頸がん予防ワクチンについての情報提供を充実させた上で、積極的勧奨の差し控えを終了させることが妥当とされ、本年4月から他の定期接種と同様に個別の勧奨が行われることとなりました。

■厚生労働省ホームページ

ヒトパピローマウイルス感染症
子宮頸がんとHPVワクチン



ワクチン接種に関する相談窓口

(1)接種後に体調に変化があった場合

接種を行った医療機関（主な医療機関）

- 町立別海病院 TEL75-2311
- 中標津こどもクリニック
TEL0153-78-8311

(2)北海道子宮頸がん予防ワクチン相談窓口

- 副反応が生じたことによる医療や生活の悩みに関すること
北海道福祉保健部感染症対策局
感染症対策課 TEL011-204-5253
- 学校生活など教育の悩みに関すること
北海道教育庁学校教育局
健康・体育課 TEL011-206-6818

(3)予防接種による健康被害救済に関する相談 やワクチン接種全般に関する問合せ 町民保健センター TEL75-0359